

大栗裕の採譜の実際 -- 「大栗文庫」所蔵資料の2015年度再調査報告を中心に

白石知雄（大阪音楽大学）

1. 大栗文庫について

1982年4月18日 大栗裕（1918-1982）死去。20日 告別式。
6月 大栗裕氏作品管理委員会（委員長：朝比奈隆）から関係者への呼びかけ
11月18日 大阪音楽大学への大栗裕作品目録贈呈式
= 大阪音楽大学付属図書館大栗文庫開設

- ・朝比奈隆校訂『仮面幻想』1985年、カワイ出版
- ・『吹奏楽のための神話』1990年、音楽之友社
- ・『巫女の詠えるうた』1991年、ヤマハ教販
- ・大阪市音楽団『大栗裕作品集』1992年、東芝 EMI
- ・『日本作曲家選輯 大栗裕』2001年、ナクソス
- ・大阪音楽大学第37回吹奏楽演奏会「大栗裕の世界」2005年11月16日

2007年4月6日 大栗芳子から大阪音楽大学への自筆資料の正式寄贈（著作権契約締結）
→ 大栗裕没後30年記念演奏会、2012年4月20日

所蔵資料：自筆楽譜、演奏会プログラム、各種録音資料など、点数等詳細は現在整理・確認中

2. 交響管弦楽のための組曲《雲水讃》（1961）の草稿について

資料1: 交響管弦楽のための組曲《雲水讃》

作曲 : 1961年10月 改訂 : 1964年1月

放送初演 : 朝日放送、1961年11月27日（第16回文部省芸術祭参加作品）

森正（指揮）、大阪フィルハーモニー交響楽団

演奏会初演 : 大阪フィルハーモニー交響楽団第15回定期演奏会、1962年1月12日

朝比奈隆（指揮）、大阪フィルハーモニー交響楽団

第1楽章：「発願」（楽譜帳 p.20～21）～「つつて」（楽譜帳 p.21）～「発願」の変奏
～「お月さん」（楽譜帳 p.25）～推移（「つつて」による）～コーダ（「発願」による）

第2楽章：御詠歌1～御詠歌2～御詠歌3～御詠歌4

*旋律（楽譜帳 p.40～41）は同一で楽器法が毎回変化

第3楽章：自作主題（楽譜帳 p.35）の提示～「安達ヶ原」（楽譜帳 p.23）～自作主題の展開
～六斎念仏（出典未確定）～「発願」の回想～自作主題の再現

表 1: 吉祥院六齋念仏と大栗裕の《雲水讃》

1979年 調査報告書	1961年 大栗録音	1961年 《雲水讃》	2010年 大祭	備考
発願	○	○	○	
つつて	△※	○	○	※上書きにより後半欠落
お月さん	×	○	○	
朝野	×	×	×	
鉄輪	×	×	×	
四ツ太鼓	△※	○	○	※上書きにより前半欠落
安達ヶ原	○	○	○	
玉川	×	×	×	
大文字	×	×	○	
祇園囃子	△※	×	○	※一部分のみ収録
岩見重太郎	×	×	×	
盛衰記	○	×	×	
羽衣	×	×	×	
獅子太鼓	×	×	○	
獅子舞	×	×	○	
獅子と土蜘蛛	△※	×	○	※一部分のみ収録
和唐内	×	×	×	
回向唄	×	×	○	

資料 2: 吉祥院六齋念仏の採譜を含む楽譜帳の内訳

p.1-18	民謡メドレー
p.19	?
p.20-21	【採譜 1】 六齋念仏「発願」
p.21-22	【採譜 2】 六齋念仏「つつて」
p.23	【採譜 3】 六齋念仏「安達ヶ原」、【採譜 4】 六齋念仏「?」
p.24	[未使用]
p.25	【採譜 5】 六齋念仏「お月さん」
p.26-28	【採譜 6】 六齋念仏「?」
p.29-33	【採譜 7】 六齋念仏「?」
p.34	【採譜 8】 六齋念仏「?」
p.35	《雲水讚》第 3 楽章主題草稿
p.36	御詠歌
p.37	和讃
p.38-40	?
p.40-41	御詠歌
p.42	《雲水讚》第 3 楽章主題草稿
p.43	[未使用]
p.44	?
p.45	[未使用]
p.46-50	?

譜例 1: 吉祥院六斎念仏の採譜を含む楽譜帳 20 ページ 「発願」 冒頭

The image shows a handwritten musical score on a spiral-bound notebook page. The score is organized into three systems, each consisting of two staves. The notation is a mix of Western-style musical notation (notes, rests, clefs) and traditional Japanese notation (kuzushiji characters). The first system begins with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The second system features a large bracketed section with a 'rit.' marking, indicating a ritardando. The third system continues the piece with various note values and rests. The handwriting is clear and legible, with some annotations in Japanese characters interspersed with the musical notation.

譜例 2: 吉祥院六斎念仏「発願」(2010年8月25日大祭より採譜)

(ほオツ願 あアアアア) あアアアんに 至心帰みよおおオオオオ

譜例 3: 吉祥院六斎念仏「発願」(大栗裕採譜)と《雲水讃》第1楽章冒頭

Notebook

Un-Suin-San: Va

f

3. 大栗裕と「ニューリズム」

引用 1:

太鼓を打つのが早く[ママ]、リズム感があることを指して、菅原組 [吉祥院六斎念仏伝承団体] ではこれを「手が軽い」という言葉で表した。それとは逆に、打つのが遅く、リズム感が良くない場合は「手が重い」と言う。しかし京都市内の保存会の中には打つ早さ[ママ]を重視しない地区もあり、昭和 30 年のマンボブームの時期に、打つ早さ[ママ]を重視した吉祥院六斎を揶揄して「マンボ六斎」と呼ぶこともあった。

(相原 2003: 66)

4. 大栗裕とバルトーク

引用 2:

朝比奈隆氏談 [……]大栗君の作品は各地で好評でした。特に各楽団の受取り方が非常によくこの郷土色の強い「雲水讃」はイタリアーでは「大栗・バルトーク論争」にまで発展しました。

(無署名『関西音楽新聞』1962年3月20日、1頁)

引用 3:

交響管弦楽のための「雲水讃」

ドレスデン、ハンブルク等にて朝比奈隆指揮で演奏、ローマに於てバルトークと比較され好評を博す。

(大栗裕「作品表」、1963年自筆、京都女子大学に提出)

引用 4:

ベルリン日報 1956年6月22日

[……]

芥川也寸志の「絃楽の為の三楽章」を関西交響楽団の指揮者朝比奈隆が音楽院ホールで指揮したが、ヒンデミットとバルトークの影響の他に性格的にプッチーニ的(プチネスケ)音(クランクフォルム)が認められる。

大栗裕の「大阪俗謡による幻想曲」は前者とは全く別個の趣きがある。

此所にもバルトークの影響を指摘する人もあろうが、此の曲では模倣よりも我々に近い音楽感覚に献身している事がうかがわれる。[……] (オエールメン)

(朝比奈隆帰朝特別演奏会プログラム、1956年8月20日、産経会館)

参考文献

相原進 2003 「民俗芸能の保存と後継者育成問題 -- 京都市内における『六斎念仏』の保存活動を事例に --」
『立命館産業社会論集』30/3、53-68頁

白石知雄 2011 「大栗裕と民俗仏教 -- 《交響管弦楽のための組曲「雲水讃」》の成立と改訂 --」『大阪音楽大学研究紀要』49、31-51頁

輪島裕介 2015 『踊る昭和歌謡 リズムからみる大衆音楽』NHK出版